

標記はその時の標題であり、内容は札幌森友会の立ち上げからNPO法人認証の経緯と、地域の人々との森づくりや子どもたちの森林環境教育等の活動を紹介し、活動に伴ういろいろな問題とその対応を記述しました。

このときの編集後記を参考に付記します。
森林遊びサポートセンターの小林氏が森林環境教育の重要性を語られています。マンツリーと対話し、その成長を観察する。なんて豊かな教育なんだろうと思いました。日本の林業について、消費者の認識を高めるためにも、森林環境教育の取り組みは有効ではないでしょうか。この取り組みが日本全国に広がることを願います。

「かいちょう」は、このような全国に700部発行されている広報誌に、私どもの活動を紹介させていただくことをありがたく感謝しております。

やまおやじとのかいわ(怪話) 小鳥の村・愛鳥広場周辺 平成24年7月15日

近年春の訪れとともに札幌市郊外では「やまおやじ」の出没が多くなりました。また、「かいちょう」の住む南区藤野・石山地域の里山でも確認されて、農家の畑の被害や子どもたちの登下校等にも影響しております。

「小鳥の村」の植樹地の見回りに出か

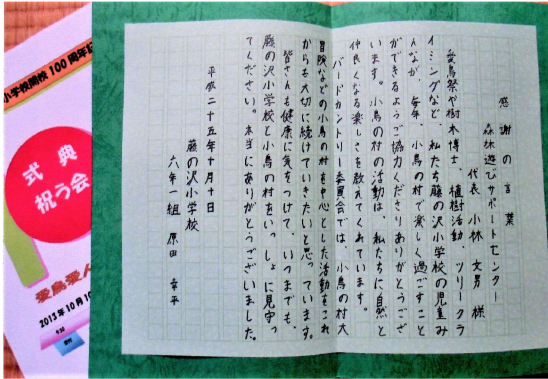
うと、ナントナントここに載るとは考えもしなかった、これは事件だ。この日は、大変平和な日で北海道新聞の一面を満たす記事が不足したのかも?と思いつつも、編集委員様にありがたく感謝の気持ちで一杯でした。

その後、一面記事の効果百倍で、いろいろな方から激励やら、まだやっているとんだね...とかの声をたくさんいただき、これまた感謝を申し上げます。

- 会員80人 32歳〜88歳 平均69・7歳
- 男性31人 45歳〜88歳 平均71・5歳
- 女性49人 32歳〜81歳 平均68・5歳

会員期間が長く、会創立以来の間や、65歳までの勤めを卒業した方々など、いろいろな業種の精通者がその経験を出し合いながら、癒しや達成感、誇りを持つての活動から、健康の増進と生き甲斐の増幅につとめる「わたしの周りは超高齢化社会」を続けましょう。

札幌市立藤の沢小学校 「開校100周年記念式典」に招かれて「バードカントリー委員会」代表から感謝状をいただく! 平成25年10月10日



開校100周年記念式典で感謝状



記念植樹(簾舞国有林)



樹海再生の森づくり

けました。森の植樹地とか遊歩道のところどころ草を刈り払いながら、ドングリ丘から六が池も過ぎて愛鳥広場まで、あと30分程のところに進んだところで、突然笹藪の方から耳をつんざくような威嚇の声に「かいちょう」もびびり、瞬間「かいちょう」も大声で怒鳴ったところ、数秒後には50分まで離れたところで、先ほどよりは緊迫感が薄れた感じでの応答?があり、「かいちょう」も少し優しい感じでの2回目の対話?。次は根(藤野マナスル登山路・見晴台付近)あたりからのかすかに聞こえるような声でこの日はお別れしました。そのあと9月7日「かいちょう」はふたたび小鳥の村の見回りにでかけました。遊歩道のところどころに生トウキビの食べ殻が落ちていて、へんな予感を抱きながら前回のところまで進んだところで、今回は「かいちょう」から予告の大声を発したところ、なんとなんとすかさず数秒ほどの間をおいて前回よりは緊張の取れた感じの、応答?があり距離の余裕もあるようなので「かいちょう」そこから引き返しなが回数にわたって声をかけましたが、その都度近くなったり離れたりの感じの威嚇が続きました。



藤野マナスル



こども樹木博士認定

平成25年10月10日、藤の沢小学校では「開校100周年記念式典」を催され、その祝う会に当森林遊びサポートセンター代表として招かれました。この式典には地域の代表者や学校関係者、PTA保護者等160数名と子どもたち153名の出席により厳粛盛大に行われました。「かいちょう」は学校から事前に感謝状の授与があることを耳打ちされおりましたが、丁度式典の中間程から子どもたちの「お祝いの集い」藤の沢小の過去・現在・未来が演じられ、その中で式典の真ん中に招かれて子どもたちからの感謝状をいただきました。受賞対象者は、小鳥の村での環境教育での森林遊びサポートセンターを代表しての「かいちょう」ともう一方は学校の花壇の手入れ等で貢献されている女性の方でした。「かいちょう」は、今までも会を代表していろいろなほうびをいただきましたが、今回は100年のうちのこの日に「153人の子ども達」から感謝の言葉を三百数十人に見守る中でいただき、これ以上の幸せを感じたことはありません。小鳥の村では、子どもたちと会員みなさんが一緒になって「げんきの森」づくり活動を展開しております。これからもみんなで子供たちが「自然を大切にすることを育む」力になるようにがんばりましょう。

「かいちょう」は、今までも会を代表していろいろなほうびをいただきましたが、今回は100年のうちのこの日に「153人の子ども達」から感謝の言葉を三百数十人に見守る中でいただき、これ以上の幸せを感じたことはありません。小鳥の村では、子どもたちと会員みなさんが一緒になって「げんきの森」づくり活動を展開しております。これからもみんなで子供たちが「自然を大切にすることを育む」力になるようにがんばりましょう。平成26年5月14日 「樹海再生の森づくり」が実った! 私どもが平成11年に植樹したアカエゾマツも15歳となり、今日はみんなで除伐作業を行いました。植えたアカエゾマツの生育を妨げている邪魔な木やつるを切り取ってスクスクと大きくならしてもらいます。ところで、みんなが植えたこの素晴らしい森、これまでの歩みを見てみましょう。平成9年(1997年)10月に、苫小牧高丘の国有林48haが、竜巻に被害

れれ...これってなんだろう? 「かいちょう」の「つぶやき」小鳥の村の不可解現象!
小鳥の村付近は春融雪以来の熊出沒で大騒ぎ、入り口には熊出沒注意の看板が設置しているにもかかわらず、これって、わざわざ餌をやってヤマオヤジをおびき寄せているんだべか?
10万時間何をしますか?
わたしの周りは超高齢化社会
平成25年5月31日
北海道新聞2013年5月31日付朝刊1面記事です。
「かいちょう」はあるきっかけから、過日北海道新聞編集局生活部編集委員の方と写真部記者から、自宅と茨戸川緑地で取材を受けることになりました。その後、当会の青森県内の癒しの活動途中に、前記編集委員の方から電話で5月31日付朝刊に載りますとの連絡をいただき、楽しみが一つ増えた感じで、同行のみなさんにも是非見てくれるように伝えました。
いよいよ31日の朝を迎え、いつものとおり5時起床で朝の体操しているところに先を競うように家内が新聞の生活面を何回かめくっていましたがおとうさん載っていませんよーショック...ここで私は平静をよそおって、何かの都合で次回にでも載るでしょう...ところが、そのあと、新聞は一面からの習慣でフツと目に入ったのが、なんだかおれではないか? 家内を呼んで、これおれか? と問